**良き知らせ：ただ一つだけ   July 16, 2016**

**Luke 10: 38-42 Pr. H. Adachi**

主の恵みと平安が会衆の心の中にしみわたりますよう

すでに3週間前に発表があったようにカール牧師は10月9日をもって引退される。　最近だが、すくなくとも3人の方々から同じことを言われた。カール牧師の引退を考えたくないと。しかし、みなさん、10月9日はすぐに来てしまうし、多くのことに取り組むということがわかっているのだが。

さて、与えられた福音書箇所はマルタとマリアの話。　この話、みなさんにとっては、もう何回も聞いたことがあるという方が多いのかと思う。　今のような日々を迎えるLCRにとって、何か新しい光を見るような、最高の聖書箇所が与えられているのではないかと思う。　もしそうでなかったとしたら、少なくともわたしにとって、とても意味がある福音書箇所である。　なぜなら、わたしはマルタのような心境だからだ。　たとえマルタほど料理はうまくないと思うが。。。

先週、Pastor Carlから話があったように、Bishopのオフィスでは、すでにTransition、移行時期 がはじまっている。7月31日を持って引退されるBishop Finck だけではなく、あわせて4人のスタッフが教区オフィスを去られる。8月1日には、Bishopともう一人のExecutive Assistant の方二名が教区オフィスに来られることは決まっている。　まだ、ほかの方は決まっていない。マルタと同じように、多くの人々が、ふりまわされている感は否定できない。

とかく、マルタとマリアの話は、マルタが活動型の人間で、マリアは観想型の人間で、どちらかというと、イエスはマリアがよくて、マルタはだめなような解釈をされてしまうことがある。　というのは、過去に「私はマルタだからだめなのよ。」と言う方が何人かいたから。

しかし、イエスは、マルタのようにもてなすことより、マリアのように、じっくり主の話を聴くことが大切だとそんなふうに思っていたのだろうか？　そして、事実として、マリアだけがイエスの話しを聞いて、マルタはイエスの話しを聞かなかったのだろうか？　これらの主の言葉を聴くことに関するふたつの質問について考えることで、今日、主なるイエスが私たちに何を話しておられるか考えたい。

まず、もてなすことと主の話を聴くことの重要性だが、日本語ではもてなすと訳された言葉はもともとギリシャ語ではディアコネオーという言葉だ。それは奉仕するとか仕えるとも訳される言葉である。イエスは「仕える」ということをたいへん重要だとしていた。「偉くなりたいものは、皆に仕える者になるように、一番偉くなりたい者は、僕になるように」とイエスが語られていたことを思い出す。

もちろん、マルタに問題点がなかったとは言えないだろう。マルタがマリアを尊敬していないような発言をした事は問題だったかもしれない。しかし、決してマルタが忙しく働き回っていることを否定してマリアのようになる事がイエスの意思ではないのだと思う。

そして二つ目の質問について考えたい。マルタはイエスの話を聞かなかったのだろうか？ わたしはそんなことはないと思う。　まずマルタの怒りは当時の常識からあたりまえで、それでマリアを非難しただけなのだと思う。　男尊女卑、だいたい12人の弟子全員が男性だった、のような世界にあって、マルタの気持ちを私はこんな風に代弁したい。「私は女であるがゆえに、主の話を聴きたいのに、男性であるあなた方をもてなしている。マリアはその常識をわきまえずに、主の話を聴いている。イエスさまなんとも思わないのですか」という悶々とした思いを、マルタは、マリアの前で、素直にイエスにぶつけている。

それに対して、マルタを決して卑下するのではなく、とても短いがすばらしいイエスのメッセージをマルタはしっかり聴くことになった。　「マルタ、マルタ」とイエスは二回も名前で呼んでくださり、マルタへの大きな憐れみをもって、話される。　「あなたは多くのことに気を配っている。しかし、心を乱している。　しかし、必要なことはただ一つであり、マリアはそれを選んだ。それはとりあげてはならない。」

これまでの固定化された役割分担に縛られ、人と人との関係でしかマリアを見ることができなかったマルタにとって、また女性であるがゆえに、イエスの話を直接聴くなんてするべきではないという悶々とした思いから、マルタを一気に解放する、気持ちの良い福音をマルタはイエスから直接、聴いたのではないだろうか？

今日のイエスの言葉、わたしたちも聴いている。　それは、ついつい他人との比較の中で、自分を見てしまうわたしたちにとっても、奉仕するということを一生懸命に遂行するなかで、必要以上のことまで、考えてしまい様々な思いに縛られてしまう、わたしたちにとっても、大きな解放をもたらす、福音ではないだろうか？

二人以上がイエスの御名のもとに集まるところでは、そこにいっしょにいてくださるイエスから、「必要なことはひとつだけである。」という言葉を今日、聴いている。　さまざまな移行期状態にあるわたしたちである、それぞれ、立場が異なるわたしたちだが、イエスからは、「必要なことはひとつだけ」というイエスの言葉を聴いている。　とても大きな、恵みに満ちた憐れみ深いイエスの体を成す、ひとりひとりに、その名前を呼びながら、イエスは直接語ってくださっている。

アーメン。